❷企業の活動実態（選考）

企業の選考スケジュールや、企業にとってのインターンシップの位置づけの変化は?

3・4月に内々定・内定を出す企業が増加

企業の活動実態を、選考スケジュールから見てみたい。企業の採用活動プロセスごとの開始時期を見たところ（グラフ❶）、「採用情報の提供」を開始した企業が最も多かったのは2018年3月で65.6%。18年卒採用における同時期（2017年3月：66.9%）に比べると1.3ポイント減少した。一方、2月以前に開始した企業は25.9%で、18年卒（22.1%）より3.8ポイント増加した。

また、「自社説明会・セミナー（対面）」は、18年卒同様に採用広報開始月である3月に集中し、19年卒においては2018年3月に開始した企業が70.0%と、18年卒（66.7%）より3.3ポイント増加している。なお、2月以前に開始した企業も11.3%あった。さらに、「大学で開催される合同説明会・セミナー」「大学以外で開催される合同説明会・セミナー」を2月以前に開始した企業となると、前者は4.8ポイント増の46.5%、後者は3.7ポイント増の40.9%と、いずれも増加していた。

「書類選考」は3月、「面接」は4月、「内々定・内定出し」は6月に開始した企業の割合が最も高かった（それぞれ49.9%、29.9%、31.3%）。また、18年卒と比較して開始企業の割合が増加していた月は、「書類選考」は3月で、5.6ポイント増の49.9%、「面接」も3月で、5.0ポイント増の27.2%、「内々定・内定出し」は3月が2.9ポイント増の9.3%、4月が3.2ポイント増の21.3%だった。

なお、最初の内々定・内定出しを5月以前に行った企業も8.4ポイント増加しており、57.5%だった。全体として、採用活動プロセスが少しずつ前倒しされていることがうかがえる。

インターンシップ実施企業の4社に1社が採用目的で実施

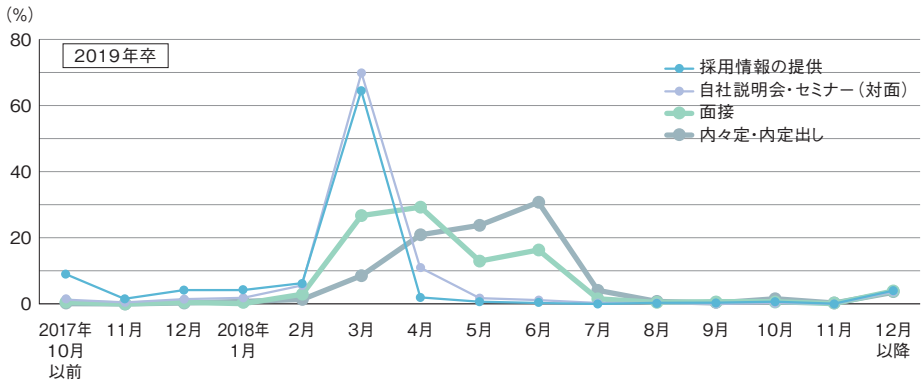
採用活動プロセスの前倒しの一要因として、インターンシップを実施する企業が増えていること（P16参照）も考えられる。実際はどうだろうか。

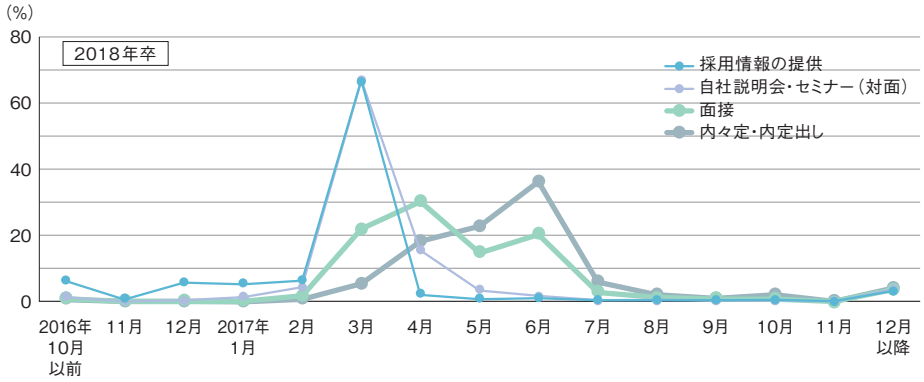
まず、インターンシップに参加経験のある学生に、初めてインターンシップに参加した時期を尋ねたところ（P15・グラフ❷）、「大学3年生4～6月」が8.1%と18年卒

企業 3月に面接や内々定・内定出しを開始する企業が増加

❶ 採用活動プロセスごとの開始時期

※全体／それぞれ実数回答





18年卒採用と19年卒採用を比較すると、面接は、5・6月に開始した企業の割合が32.5%から29.8%に減少し（2.7ポイント減）、3・4月に開始した企業の割合が52.8%から57.1%に増加した（4.3ポイント増）。また、内々定・内定出しは、6月に開始した企業の割合が34.2%から31.3%に減少し（2.9ポイント減）、3～5月に開始した企業の割合が47.2%から54.7%に増加した（7.5ポイント増）。

より3.7ポイント増加し、「大学3年生7～9月」は40.7％と18年卒と同水準だった。なお、大学入学前～大学3年生12月に初めて参加した学生の割合を合計すると69.2％で、18年卒（65.1％）より4.1ポイント増加。一方、大学3年生1月～大学4年生3月に初めて参加した学生の割合は19.6％で18年卒（23.0％）より3.4ポイント減少しており、参加時期がやや早まっていることがうかがえた。

次に、インターンシップを実施した企業に内定者のインターンシップ参加状況を尋ねたところ（グラフ❸）、内定者の中にインターンシップ参加者が「いた」と回答した企業は75.4％。従業員規模別に見ると、300～999人企業では74.8％、1000～4999人企業では88.6％、5000人以上企業では90.2％だったが、300人未満企業では45.1％と半数を下回った。

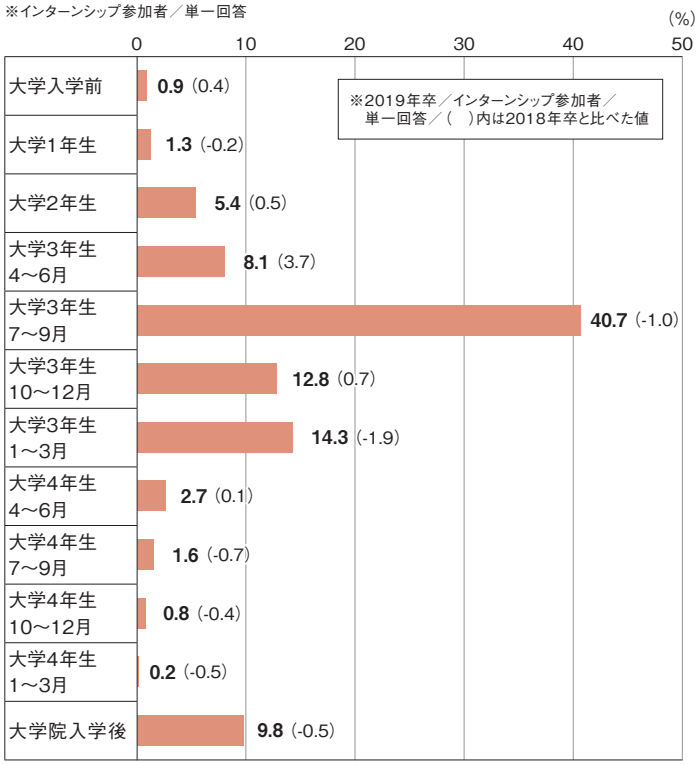
また、インターンシップを「そもそも採用を目的として実施」していると答えた企業の全インターンシップ実施企業に占める割合は、26.0％。従業員規模別に見ると、300人未満企業では17.0％、300～999人企業では26.1％、1000～4999人企業では29.9％、5000人以上企業では29.5％だった。全体で見ると、インターンシップを実施した企業の4社に1社は採用を目的としたインターンシップを行っていることとなり、これらの企業を中心に早いタイミングで採用活動が行われていることが推察される。

さらに、インターンシップに参加経験のある学生に対して、インターンシップ参加企業への入社予定について尋ねたところ（グラフ❹）、「インターンシップ参加企業に入社する予定」と回答した学生が37.3％で、前年より15.0ポイント増と、大幅に増加した。これらの学生にインターンシップと採用選考の関係について尋ねたところ、何らかの形で「関係があった」と回答した割合は67.8％。「採用選考とまったく関係がなかった」と回答した割合は25.6％だった。また、「参加企業ではないが、同業種の企業に入社予定」と答えた学生は24.7％で、合わせて62.0％の学生がインターンシップ参加企業ないし同業種の企業に入社予定という結果に。これは、前年に比べると10.6ポイント増加している。

学生 インターンシップ参加者の約7割が大学3年12月までに初参加

❷ インターンシップの最初の参加時期

※インターンシップ参加者／単一回答

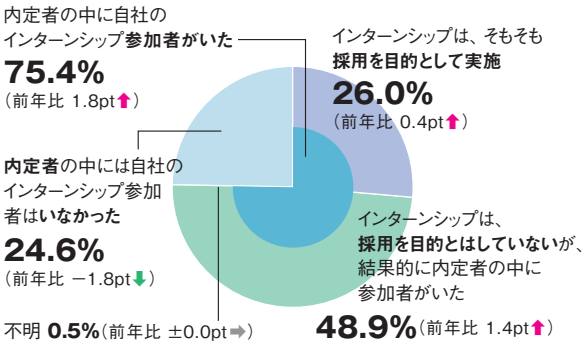


大学入学前～大学3年生12月の期間に初めて参加した学生の割合を合計すると、69.2％。また、大学3年生4月～9月の期間に初めて参加した学生の割合を文理・男女別に見ると、文系男性52.4％、文系女性55.2％、理系男性44.0％、理系女性37.6％だった。

企業 約75％の企業で、内定者に自社のインターン参加者がいた **学生**

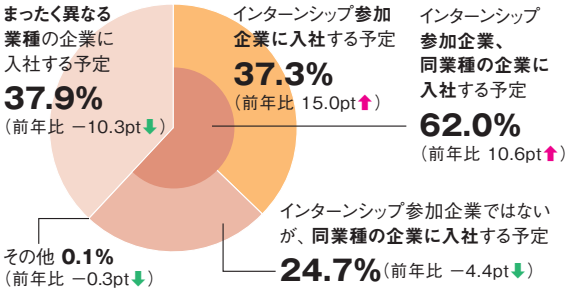
❸ 内定者のインターンシップ参加状況

※2019年卒／インターンシップ実施企業（実施予定含む）／単一回答



❹ インターンシップ参加企業への入社予定状況

※2019年卒／インターンシップ参加者・就職確定者／単一回答



内定者の中にインターンシップ参加者が「いた」と回答した企業の割合を業種別に見ると、最も高かったのは金融業で87.2％だった。